

第3回のテーマ：夢かうつつか？

問題意識：

現実が現実だと（夢ではないと）証明する方法。（VR等のバーチャルが発達している今考える）

私たちは自分の生きている日常を現実と信じて疑わないが、見ているものが現実とは限らない可能性について考える。

現実をどのようにして認識しているのだろうか。

虚構の存在の上に成り立つ現実だろうか。

（学生Aさんから）

丸山眞男（1914–1996）

フィクションというのは辞書をひいて見給え、ラテン語の *fictio* から出たとあって、本来、形づくるとか、工夫するとかいう意味で、それが転じて想像するとか見せかけるという意味になる、と書いてある。つまり本来は広く人間がある目的なりアイディアの下に何かをつくり出すことをいうわけだ。そこで「フィクション」を信ずる精神の根底にあるのは、なにより人間の知性的な制作活動に、従ってまたその結果としての制作物に対して、自然的実在よりも高い価値評価を与えて行く態度だといえるだろう。制作というのは素材のあるアイディアに従って加工して行くことだから、制作過程を素材の側から見れば「質量」が「形相」になる過程であり、制作主体の側からいえば「質量」を「形相」にする過程だ。（中略）「つくりごと」というのは「現実にはないもの」ということから遂にはフィクションにはうそというような悪い意味すら附着するが、うそとか現実とかが自然的直接的所与からの距離の程度を意味するとすれば、むしろ近代精神はうそを現実よりも尊重する精神だといってもいいだろう。実はそれがまさに媒介された現実を直接性における現実よりも高度なものとする精神ということなのだが・・・

『現代政治の思想と行動』

ディスカッション・ポイント

- 「近代精神はうそを現実よりも尊重する精神」
- 夢はフィクション？
- バーチャルはフィクション？うそ？現実？

テーマを随時募集！気軽に！意見・リクエスト・感想など

⇒ メール：pasca-r@kanda.kuis.ac.jp または

⇒ 意見箱@日本研究所 1号館3階1323号室（匿名投函OK）